

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年11月10日(火)

### 《取るに足りない僕》

「私たちクリスチャンにとって一番相応しい態度は何か」と思う時、今日の福音(ルカ 17・7 - 10)を紹介することがあります。しかし実際には、今日の福音を読んでいると理解できない気持ちになることがあります。それは、イエス様の時代と今の時代で慣習の違いがあるからではないかと思えます。今の時代には、僕や奴隷という身分の人は、法律上はいません。誰かに雇われている人、また誰かを雇っている人はいます。しかし、今日の福音のように、一生懸命に仕事をして疲れて戻った使用人に「私と一緒に席に着いてはいけない。食事の準備をして、私が全部食べてから食べなさい。」という雇い主は、今の時代にはいないと思えます。むしろ、「ごくろうさま。一緒に食事をしましょう。」と言うのがあたりまえです。ですから、今の時代の人間の目で見たら、このようなたとえは、少しおかしいのではないかと思ってしまう。しかし、2000年前のイエス様の時代では、当然なことでした。主人が自分の僕を使うのは当たり前なこと、僕は、主人が何かをした後、その残りで生活をするものでした。

とにかく、このようなたとえをイエス様はおっしゃいましたが、これは人間の視点から人間の世界を見ておっしゃっているのではないことを、私たちは意識しなければならないと思えます。

今日の福音のキーポイントは、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならないことをただけです。』という素晴らしい言葉です。カトリック信者ならば、キリストを信じる私たちならば、いつもこういう姿勢を要求されていると思えます。やはり人間は、自分によってよい実りが得られれば、見せびらかしたい気持ち、誇りたい気持ちになるのが当たり前です。しかしイエス様は、今日の福音で『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならないことをただけです。』と言いなさいと厳しくおっしゃっています。「謙遜」の完璧な表現ではないかと思えます。しかし、このような心を持ち、自分が何かして、「あなたは本当に素晴らしいですね。」と言われたとき、「ありがとうございます。しかし、取るに足りないことです。しなければならないことをただけです。」と言える謙遜さを見せられる人は、この世にどのくらいいるのでしょうか。しかも、この言葉は、卑屈な気持ちで言っているのではありません。本当に美しい気持ちにさせる言葉なのです。

さあ、では、この時代にはこのような気持ちの人々はいないのでしょうか。いいえ、います。たくさんいます。

大阪のある宣教会のある司祭から、1~2か月前に私に電話がありました。その時、福祉について「こういうことをしています。」という説明をして、担当者の電話番号を教えました。その後、その司祭からこちらの福祉委員長に電話があり、いろいろ事情を聞いたのでしょう。今日、その宣教会から30万円が届いた、と言う報告を福祉委員長からいただきました。

今日の話だけでなく、北は北海道から南は九州まで、とにかく全国的にいろいろな方の支援が寄せられています。もちろんほとんどの方はオトリック信者の方です。しかし中には信者でない方もいます。九州のある方なども信者ではなく、何かの紹介で太田教会が難しい事情の方々のために頑張っている、という話を聞かれ、何回も食糧などを送っていただきました。

それらを見て、私は本当に希望的になっています。それらの人々の顔も分かりませんし、名前さえも忘れてしまいます。そして彼らは、太田教会と何のつながりもありません。たぶん、彼らの周囲の

人々も彼らが物を送っていることを知らないと思います。しかし彼らは、「自分がしなければならないことをしただけです。」という本当に謙遜な心で、物を送ってくださっています。そして、その心で私たちを感動させています。そのような人々がいるから、人間がこんなにも罪を犯しているのに神様から赦されているのではないかと思います。彼らがどのような理由で、どのようにして食糧やお金を集めたのかわかりません。何の説明もありません。ただ、「送らせていただきます。」という言葉だけで、困っている人々に何か助けをしようとしたのです。く

また、私の司祭としての人生の中でも、「これをよいことに使ってください」というメモとともに封筒に現金を入れて、名前も残さずに行ってしまう人もいました。顔を知らない人です。それらの人々の心はどうなのでしょう。彼らに、もったいない気持ち、惜しい気持ちはなかったと思いますか？いいえ、あったと思います。しかし彼らの心には、それ以上に「しなければならない」という強い思いがあったのでしょうか。

それらのことから、この世の中は、まだまだ希望があるのではないかと思います。今日の福音を読んで、それらの方々の心が読まれているように思い、本当に嬉しかったです。

さあ、私たちもいろいろな難しさや困難さにぶつかることがあると思います。しかしその中で、「当然しなければならないことをしただけです。」という謙遜な心が私たちの中にあれば、「私たちは本当に幸せです。」という告白が自然にできるのではないかと思います。

皆様もご存知のように、この世界が作った条件によってでは、私たちは絶対に幸せになれません。キリストがおっしゃった、とんでもないことのように思える言葉によって、私たちは救われるのです。そして常識を超える何かの心によって、いろいろな人々が光を見られるのです。

ありがとうございました。